

神大スポーツ

KU

2019年4月1日(第32号)月曜日

発行:神奈川大学
協力:神奈川大学体育会本部
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL045-481-5661

世界で活躍する スケート部スピード部門

JINDAI SPORTS

ユニバーシアード3位 重弘選手が



第29回ユニバーシアード冬季競技大会(以下ユニバーシアード)シヨートトラック男子1500mにて、重弘喜一選手(人科・3年)が3位に輝き、世界に実力を見せつけた。

重弘選手は、ISUワールドカップシヨートトラックスピードスケート第4戦・5戦の日本代表に選出されるなど、世界でも注目の選手である。

スケート部スピード部門
SPEED SKATING



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！
神奈川大学体育会会長を務めております、卓球部所属の鈴木 優と申します。

入学前には長く感じる大学の4年間は本当にあっという間に過ぎてしまいます。皆さんの中には、これから始まる新生活に期待で胸をふくらませている方も多くいらっしゃると思います。そんな皆さんには、この4年間を有意義に過ごすために、一生の宝にするために、大学生活の中で1つでもいいので本気で打ち込めるものに会って欲しいです。それが勉強、部活動、サークル、アルバイト等どんなことでも良いと思います。

本気で打ち込んだことが4年後に結果として出てきて、またそれが大きな財産となります。しかし、数ある選択肢の中から選ぶことは簡単ではありません。何をしようかと悩んでいるうちに限られた時間はどんどん過ぎていきます。少しでも悩んでいる方の参考になればと思います。部活動について簡単に紹介させていただきます。

神奈川大学体育会には横浜・

体育会会長挨拶

卓球部 鈴木 優
(人科・4年)

湘南ひらつかキャンパス合わせて43団体が加盟し、1000人以上の体育会会員が活動しています。本学はともスポーツに力を入れており、各部優秀な成績を残し、中には世界や全国で活躍している部活動もあります。

学部・学科の枠を超えた、高めあえる皆さんの仲間があなたを待っています。毎年、『大学までで部活はちよつと...』と考えている方が数多くいます。しかし、大学の部活動はこれまでとは異なり、自主性が必要とされます。

仲間と共に悩み、苦難を乗り越えることができます。私自身も毎日の練習を通して、多くの大切な仲間と出会ってきました。皆さんにもこれからの4年間、体育会で大切な仲間と最高の時間を過ごして頂きたいです。

入学後は多くの先輩から部活、サークル等の勧誘があります。自分の意思をしっかりと持ち、自分に合ったところを選んでください。その上で体育会の部活動を選んで頂けたなら、幸いです。皆さんが最高の4年間を過ごすことを心より祈っています。

重弘選手以外にもスケート部スピード部門は能力が非常に高く、第91回日本学生氷上競技選手権大会シヨートトラックスピードスケート競技(以下インカレ)にて男子が2年連続の総合優勝を果たしている。部として、今年度は「インカレ男子総合3連覇・女子上位入賞、ワールドカップ出場」と高い志を掲げている。

阿部凌大選手(人科・3年)

重弘選手以外にもスケート部スピード部門は能力が非常に高く、第91回日本学生氷上競技選手権大会シヨートトラックスピードスケート競技(以下インカレ)にて男子が2年連続の総合優勝を果たしている。部として、今年度は「インカレ男子総合3連覇・女子上位入賞、ワールドカップ出場」と高い志を掲げている。

阿部凌大選手(人科・3年)

ユニバーシアードを振り返り、重弘選手は「運も味方した試合展開であったが、非常に良い経験にもなり自信に繋がった。2年後の北京オリンピックで一番高い位置の表彰台に立つためにも、良い点・悪い点をしっかりと精査し練習に打ち込みたい」と熱く語ってくれた。昨年度に引き続き、今年度も重弘選手から目が離せない。

は「昨年度は、各部門が日本代表に選出やインカレで男子総合2連覇を達成するなど内容の良い1年間だった」と振り返る。新体制となり同部をまとめる立場となった阿部選手は「スピードスケートは個人競技の面が非常に大きい。部員の能力が非常に高い反面、チームとしてまとまりがなくなる事も少なくない。ただ得点の高いリレー種目にはチーム力が欠かせない。自分自身が指針となれるよう活動していく」と語ってくれた。チームの柱としての自覚を持ち、自分自身を更に成長させるために部と真摯に向き合っている姿が印象的であった。

最後に阿部選手は「スケート部スピード部門は神奈川大学の重点強化部に選出されている。多くの援助をいただき、非常に恵まれた環境で練習に取り組んでいる。神大の名に恥じぬ活躍で結果を出し続けたい」と熱く語ってくれた。今年度も国内外で活躍する選手の姿が非常に楽しみである。



2019 新年度への抱負

1部リーグTOP8への挑戦!!

アメリカンフットボール部
AMERICAN FOOTBALL



アメリカンフットボール部ATOMSは、2018年度関東学生アメリカンフットボール連盟リーグ戦2部リーグBブロックにて、7戦全勝で1位に輝いた。続くチャレンジャーマッチ・入替戦でも勝利し、1部リーグBIG8への昇格を果たす好成績を残した。今年度は、1部リーグTOP8への昇格を掲げている。

坂本アントニーマウネア主将(現ビ・4年)は「昨年はオフシーズンでチームを強化することができた。1部リーグBIG8に昇格したことはチームのモチベーション向上に繋がっており、今シーズン部員同士が意識高く練習に取り組んでいる」と話してくれた。

同部では、大学からアメリカンフットボールを始める選手も多数いるが、日々の練習により試合で活躍している選手が多い。また、学年関係なく意見を言い合える環境がチームの強さの要因となっているのだからと語る。

最後に「私たちはチャレンジャーなので失うものは何もない。1部リーグTOP8を目指して積極的に挑戦していく」と坂本主将は熱く語ってくれた。チームの力を付け、リーグ戦で念願の1部リーグTOP8に挑戦していく姿を応援したい。

2部昇格に向けて再出発!!



サッカー部
FOOTBALL



JR東日本カップ2018第92回関東大学サッカーリーグ戦(以下関東リーグ)2部にて、悔しくも県リーグに降格してしまったサッカー部。今年度は「関東リーグ2部昇格・天皇杯JFA第99回全日本サッカー選手権大会への出場」を目標に掲げ、以前も同部の監督を務めていた大森西三郎監督と共に再スタートを切った。

白井達也主将(経済・4年)は「昨年は関東リーグで苦戦が多く、モチベーションの低下からチームの足並みが揃わなくなった。この悪循環を断ち切るために、練習と並行してチームビルディングが必須である。大森監督指導の下、ミーティングの強化・外部講師を呼んだ講習会を実施するなど、今までにない活動を取り入れている」と話してくれた。この活動を取り入れた大森監督は、地域貢献などサッカー以外の活動で人間として大きな成長に繋げる「Football+1」の生みの親でもあり、現在のサッカー部の根幹を創り上げている。

最後に白井主将は「チームの中心が伴えば、自然と結果はついてくる。指示待ちではなく主体性のあるチームを創っていく」と熱く語ってくれた。選手一人一人の成長していく姿が今後も非常に楽しみにされている。

今年こそインカレ優勝で日本一へ!!



女子サッカー部
WOMEN'S FOOTBALL



山本珠優主将(国際経営・4年)は「部を引っ張ってきた先輩方が卒業し、チームの雰囲気も変化している。70人を超えている部員の気持ちがバラバラにならないよう、学年を越えたコミュニケーションを取っていききたい」と話してくれた。同部の練習風景は、非常に和やかで活き活きと練習に打ち込んでいるのが印象的だ。

最後に「今年こそ、インカレ優勝で日本一の座を獲得したい。そのために4年生を主軸に後輩を引っ張り、試合を一つ一つ乗り越えていきたい」と熱く語ってくれた。今年度からトレーニングの「貫」として、ビーチサッカーやフットサルなどにも取り組んでおり、更なる進化を目指している。インカレで優勝に輝く女子サッカー部に期待したい。

第27回全日本大学女子サッカー選手権大会(以下インカレ)にてベスト8進出。また大隅沙耶選手(2018年度卒)・鈴木綾華選手(2018年度卒)がノジマステラ神奈川相模原へ、瀧澤莉央選手(2018年度卒)がアルビレックス新潟レディースへの入団が今季決まっております。プロ選手も多く輩出している女子サッカー部。今年度は「インカレ優勝」を掲げている。

目指すは関東リーグ1部優勝!!

男子バスケットボール部
BASKET BALL



第94回関東大学バスケットボールリーグ戦(以下関東リーグ)にて1部残留を決め、また尾形界龍主将(国際経営・4年)がアスフレックス東京ZとB・LEAGUE2018-19シーズンにおける特別指定選手契約の締結など、近年活躍が目覚ましい男子バスケットボール部。今年度は「関東リーグ優勝」を目標として掲げている。

尾形主将は「自分自身を含め、チームとしての力も非常に高くなっている。新入部員も非常にレベルが高く、上級生にも良い刺激になっている」と話してくれた。チームをまとめる主将としてチーム全体でミーティングの機会を設けるのは勿論だが、部員の不安を取り除くために積極的にコミュニケーションを取り組んでいくと話してくれた。

男子バスケットボール部の持ち味は「鉄壁のディフェンスと他を圧倒するハードワーク」である。諦めない泥臭いプレーとは言われるが、成果として表れているのは間違いない。

最後に「昨年度の関東リーグでは達成できなかった1部優勝の為に、積極的に練習に取り組んでいきたい」と熱く語ってくれた。今年も更なる活躍が期待できそうだ。

さらに飛躍する一年に向けて!!

レスリング部
WRESTLING



文部科学大臣杯平成30年度全日本学生レスリング選抜大会(以下インカレ)で須川良太選手(国際経営・2年)の優勝を筆頭に、過去最高のメダル数を獲得したレスリング部。今年度は「全日本大学グレコローマン選手権の優勝」を掲げている。

山内壮主将(国際経営・4年)は「昨年度は、国際大会に出場する選手が多すぎ、またインカレ過去最高のメダル数も獲得するなど実績を積み上げた。今年度もインカレで優勝を達成したい」と熱く語ってくれた。今年もレスリング部の戦いから目が離せない。

最後に「今年度は、過去の実績を超えられるよう、更に練習に打ち込んでいく。部一丸となって各大会で実績を残す」と熱く語ってくれた。今年もレスリング部の戦いから目が離せない。



指導者インタビュー



神奈川大学は、大学では珍しいクライミングウォールを保有している。現役部員をはじめ登山関係者の技術向上を目的として設置されたが、最近ではクライミングを主とした部員も加入している。ここ数年は、クライミングで日本トップの選手が集まる部活まで成長した。活動の幅が広がることで、更なる目標が出来る」と語る落合監督は「現在は、グレイトサミットと呼ばれる10峰とヒマラヤ・カラコラムの山脈に連なるジャイアンツと呼ばれる8000m峰(14座)全てを登頂するG&G計画を、山岳部創立100周年までに達成させたい」と熱く語ってくれた。落合監督指導の下、アルパイン・クライミングの両部門が今後も世界で活躍していくだろう。



山岳部
落合正治監督

今回の指導者インタビューは、世界で活躍している選手を多く輩出している山岳部の落合正治監督に話を聞いた。

落合監督は横浜高等学校時代に横浜山岳会に入会。その後、神奈川大学に入学し2年生時より山岳部で活動を開始。卒業27年後、落合監督のもとに、神奈川大学山岳部が廃部の危機に直面している。という一本の連絡が入る。「連絡をもらった時が、ちょうど子どもたちの大学卒業を迎えた年だった。子育てが終わりこれから何をしようか考えている最中の連絡だった。これこそ運命の巡りあわせだ」と当時を振り返る。1998年に正式に神奈川大学山岳部監督に就任。ただそれからの道は決して楽なものではなかった。就任から2年後の2000年に、夢抱き・夢育み・夢実現、という言葉掛け「セブンサミット計画」を発足。「セブンサミット計画」とは、七大陸最高峰全ての踏破を目指す計画であり、単一の大学によるチャレンジは世界で初となる。挑戦は、2003年の南米最高峰の「アコンカグア」から始まる。2004年夏、エルブリス、2004年秋、ゴジュスコ、2005年、キリマンジャロ、2006年「デナリ」と次々に踏破していく。そして迎えた2009年、世界最高峰「エベレスト」への挑戦が始まる。「危険な山は沢山あるが、エベレストは別格である。様々なトレッキングや現地での高所順応など用意周到に準備しても、山はすぐに牙を剥く」と話す落合監督。様々な困難を乗り越えて2009年5月18日エベレスト登頂を果たす。同年12月、南極大陸最高峰「ビンソン・マシフ」の登頂に成功し、世界初の単一大学による七大陸最高峰踏破の偉業を成し遂げる。「ここまで10年かかった。険しい道のりではあったが、やっと評価を認められた」と語る落合監督。ただここで話は終わらない。

クライミング部門が世界で大活躍!!

アルパイン部門の富山選手がマナスル登頂成功!

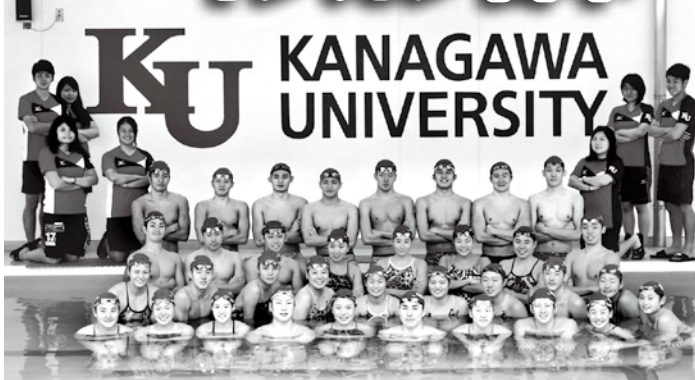


山岳部
ALPINE CLIMBING

アルパイン部門とクライミング部門の二軸で活動する山岳部。アルパイン部門では、富山政大選手(2018年度卒)がネパールの8000m級のマナスル山に登頂成功。クライミング部門では、IFSCクライミング・世界選手権2018男子ボルダリング部門で原田海選手(人科・3年)が世界チャンピオンに、IFSCクライミング・ワールドカップ(B)ミューンで緒方良行選手(人科・4年)が4位など、数々の好実績を残している。

宇田悠悟主将(経済・2年)は「昨年度は、両部門で世界的に活躍してくれた。今年度も成果を出し続けていきたい」と話してくれた。アルパイン部門に関しては、舗装路以外の山野を走るトレイルランニングの挑戦を考えており、更に活動の幅を広げていきたいと熱く語ってくれた。より活動の幅を広げながら成長する山岳部を応援したい。

インカレ日本一を目指して!!



水泳部
SWIMMING

第94回日本学生選手権水泳競技大会(以下インカレ)にて、女子チームが創部初の準優勝を果たし7年連続でシード権を獲得、第91回関東学生選手権水泳競技大会(以下カンカレ)にて、男子チームが総合4位と毎年成長が著しい水泳部。今年度の目標は女子チームが「インカレ日本一」、男子チームが「カンカレ総合3位」を掲げている。

女子チーム石坂夏鈴主将(人科・4年)は「昨年度は水泳部創部初の結果を沢山残すことが出来た。この調子で今年は日本一を目指して活動していく」と話し、男子チーム足立光駿主将(自治行政・4年)は「昨年度はインカレで女子チームの足を引く張つてしまった。今年は日本一を目指す女子チームをしっかり支えていけるように練習に励んでいく。また新入部員にも、日本一を目標とってもらいたいので、チームで丸となるような環境を醸成していきたい」と語ってくれた。

神奈川大学水泳部は個人としてもチームとしても、常に成長を意識して練習に打ち込んでいるのが非常に印象的である。今年度はインカレで日本一に輝いている水泳部を期待したい。

笑顔満開で応援に華を添える!!



チアリーディング部
CHEER LEADING

箱根駅伝をはじめ主に重点強化部の試合等に駆け付け、応援に華を添えてくれるチアリーディング部。創部一年の同部は、チアの大会に参加せず神大応援の一本に絞って活動している。一般のチアでは珍しい大きなフラッグを使用した応援も特徴的である。

鈴木彩乃主将(経済・3年)は「様々な応援に参加させていたideているが、箱根駅伝の応援が非常に難しい」と話してくれた。理由としては、応援対象が目に見えない所にある。「目の前にいない選手の気持ちに常に考え、笑顔と声援を届けるようチーム一丸となつて応援している」と話して話してくれた。この考えこそチアリーディングの本質ではないだろうか。

最後に「現在本格的に活動している11人の部員で、チームでまとまりながらも1人1人の個性を出せる様にしていきたい。ただ、活動や演目の幅を広げるために仲間が増えたら嬉しい。その為、主将として率先して活動していく」と語ってくれた。仲間が増え、今年も神大に笑顔の華を満開にしてくれるに違いない。

インカレ全員出場を目指して!!



トライアスロン部
TRIATHLON

2018日本学生トライアスロン選手権観音寺大会(以下インカレ)にて6名の選手が出場したトライアスロン部。今年度の目標は「インカレ全員出場」を掲げている。

古川勝也主将(人科・3年)は「トライアスロンは長距離かつ複数の種目を組み合わせた競技であるため、しっかりと体づくりが必要である。今年度は練習メニューを見直し、どんなレースにも対応できるようにしていきたい」と語る。ただ同部では、やみくもに練習量を増やすだけでなく、部員の自主性を非常に大事にしている。個人目標をしっかりと掲げ、そこに照準を合わせて練習と休息を自身で調整する風土が年々根付いている。

古川主将は「自分自身が後輩の目標になつてもらえるよう、インカレ10位以内を目指す。また部員全員に心からトライアスロンを楽しんでもらえるよう活動していきたい」と熱く語ってくれた。

トライアスロンはスポーツ経験者が大学から始めることが多い競技であるが、練習次第で日本や世界で十分に戦うことが出来る。更なる進化を目指すトライアスロン部から今年も目が離せない。

『速いバレー』で1部昇格へ!



女子バレーボール部
WOMEN'S VOLLEYBALL

2018年度春季関東大学女子バレーボールリーグ戦・入替戦にて再び2部昇格を果たした女子バレーボール部。今年度は「1部昇格」を目標にスタートを切った。

遠藤さやか主将(人科・4年)は「2部昇格後に臨んだ平成30年度天皇杯皇后杯全日本バレーボール選手権大会は2回戦で敗退するも、強豪の筑波大学から1セット勝ち取ったことは、非常に良い経験となった」と話してくれた。同部は「速いバレー」にこだわり、レシーブの高さやスパイクの打つ高さなど細かい部分を意識して練習を行っている。さらに、監督指示だけでなく、選手から積極的な意見を取り入れ、常に新しいプレーが出来るようレベルアップを図っているのも特徴だ。

最後に「バレーボールはチーム内の連携が不可欠である。積極的に部員とコミュニケーションを取り、1人1人の目標をしっかりと考え合いながら成長していきたい。創部初の1部昇格を目指して人々を魅了していくバレーボールをしていきたい」と熱く語ってくれた。今年も更なる活躍が非常に楽しみである。

3部昇格を目指してチーム全体で限界を超えていく

女子ラクロス部
WOMEN'S LACROSSE

第31回関東学生ラクロスリーグ戦(以下関東リーグ)・女子4部プレーオフを1位で通過し、入替戦に臨んだ女子ラクロス部。試合は延長戦までもつれ込む接戦となったが、茨城大学に1点を追加され悔しくも3部昇格を逃した。今年度は「関東リーグ3部昇格」を胸に掲げ活動を始めた。

尾澤美里主将(人科・4年)は「3部に出場している大学との差は、技術ではなくコミュニケーションである。話しやすい環境を創り上げ、選手1人1人が積極的に考えられる機会を増やしていきたい。その為に率先して声かけやミーティングを行い、チームの壁を超えた関係づくりに取り組んでいく」と話してくれた。

尾澤主将は、1年生時から多く試合に参加しており、話し合いの重要性を知っているからこそこの行動だろう。

同部では、今年から「武者修行」として他の大学の練習や試合に参加して、モチベーションの向上を図っている。その結果、1年生からも貴重な意見を聞けるようになり、以前よりも確実なチーム力が上がっているという。

最後に「3部昇格の為に、チーム全体で限界を超え、技術や勝ちへの執着心などすべてにおいて変えていく」と熱い思いを語ってくれた。今後一層の活躍が楽しみである。

課外活動団体へのご支援をお考えの皆様へ

神大スポーツ・文化振興奨励金募金



スマートフォン、タブレットから読み取ってください。

スポセンのトレーニング講座

みなさん、こんにちは。スポーツセンタートレーニングの佐藤亮です。

皆さんは、炭水化物、という栄養素を聞いたことがあると思います。ご存知の通り炭水化物はエネルギー源です。最近では炭水化物を制限する食事法もありますが、不足すると判断力、集中力がなくなり、運動だけでなく勉強にも影響がでてしまいます。タンパク質や脂肪もエネルギー源になりますが、炭水化物は即効性があり消化吸収も良く、胃腸に対する刺激も少ない重要な栄養素なのです。

食事をすると血液中に炭水化物が入ると、インスリンというホルモンが働きます。インスリンは筋

肉や脂肪などの細胞に栄養を運ぶ役目があります。インスリンはまず筋肉に働き、次に肝臓、最後に脂肪細胞に働くので、筋肉が多ければ体脂肪が増えにくくなります。運動後は血流が良くなるため栄養が運ばれやすくなり、さらにインスリンが筋肉に働きやすくなります。よって、炭水化物の多い食事の前に運動をすれば、筋肉に大量に栄養を送り筋肥大しやすく、余計な体脂肪を増やさずに済みます。逆に、まったく運動をしていない時に炭水化物を多く摂取すると、筋肉に働きにくく、脂肪に働いてしまうため、栄養も脂肪細胞に向かいやすくなります。寝る前に食べると太りやすくなる理由はこれのためです。

スポーツセンターではトレーニングが常駐しておりますので、お気軽にご相談ください。

「身体と炭水化物」

神奈川大学スポーツセンター勤務
(スポーツ施設所属)
NCA CSCS 佐藤亮

マネージャー取材日記

今回のマネージャー取材日記は、テレビなどでもよく目撃されている女子バレーボール部だ。マネージャーの浦井あゆみさん(人科・2年)は、高校時代も女子バレー部に所属していました。大学入学後、選手からマネージャーに転向。そのきっかけは、プレーではなく、サポーター側として、バレーボールに関わりたかったからだそう。

マネージャーの仕事は、練習の準備や片付け、ゲームの記録や管理など、と期待したい。

記事・体育会本部
近藤友拓(経済・3年)

その他のにも多くの仕事を抱えている。マネージャーとして心掛けていっていることを聞いてみると、チーム内でのコミュニケーションを欠かさずに行い、報告・連絡・相談を常に怠らないことだ。

最後に個人の目標を聞いてみると、将来スポーツに携わる職に就きたいと考えており、そのために、学生のうちからアスリートを支えるための観察力を身につけた、と力強く語ってくれた。そんな縁の下で力持ちはある。浦井さんが支える女子バレーボール部なら、今年度の目標である「1部昇格」を果たせるかと期待したい。



女子バレーボール部
浦井あゆみ



「箱根駅伝予選会では、ハーフマラソンを初めて走る選手も多い中、3位通過が出来たことは自信に繋がった。ただ箱根駅伝本大会では、怪我や調子の上がらない部員もあり、実力が出せず不完全燃焼となってしまった。得るものも多かったが、他大学との差を感じ、大変悔しい」

第95回東京箱根間往復大学駅伝競走(以下箱根駅伝)本大会に通算50回目の出場した陸上競技部駅伝チーム。総合16位と悔しい結果となったが、気持ちを切り替え、新チームの再スタートを切った。

再出発 シード権獲得に向け



新体制を引っ張る安藤主将は「今年度は、練習以外の寮生活でもルールを変えていた。上下関係を見直し、これまで以上に、垣根を越えた情報交換ができるような環境を醸成することで更なる成長を目指したい」と話す。チームを良くするには、コミュニケーションは必要不可欠である。新たな試みで、今後変化が生まれていくのは非常に楽しみだ。

最後に「今年こそ、箱根駅伝本大会でのシード権獲得」を達成したい。後輩の指針となるべく、我々4年生が結果を残し、チームを牽引していきたい」と熱く語ってくれた。

陸上競技部は箱根駅伝だけじゃない!

神奈川大学陸上競技部といえば、箱根駅伝やトラック競技を思い浮かべる方も多いだろう。しかし、活動はそれだけではなく、クロスカントリーにも挑戦している。

第102回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走に出場した安田共貴選手(人科・4年)は「クロスカントリーへの出場は初めてで、普段走り慣れたコース違い、想定よりもきつい競技であったと振り返る。クロスカントリーは、舗装のされていないアップダウンの激しいコースを走るのが特徴の競技である。



最後に「今回は結果が残せなかったが、良い経験にはなった。また挑戦したい」と語ってくれた。これからも様々な競技に挑戦していく陸上競技部を応援したい。



陸上競技部
EKIDEN TEAM



硬式野球部
BASEBALL

日本一の目標を胸に 今年も熱い戦いが始まる!!

平成30年度神奈川大学野球春季リーグ戦において優勝をなし、第67回全日本大学野球選手権大会への出場を果たし、更に同年の秋季リーグ戦においても優勝を成し遂げ、14年ぶりの春・秋連覇を達成した硬式野球部。今年度の目標はもちろん「大学日本一」を掲げている。

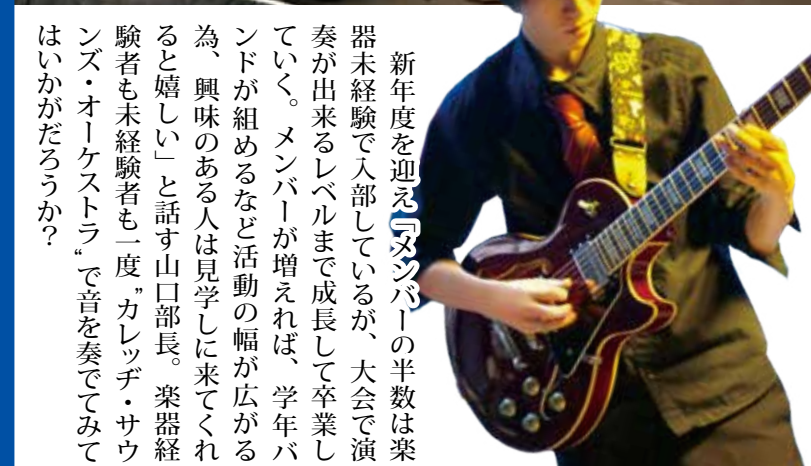


文化系だより
vol.21

音楽未経験者でも大歓迎!! 神大唯一のビッグ・バンド・ジャズ!

COLLEGE SOUNDS ORCHESTRA

カレッジ・サウズ・オーケストラ



皆さまでビッグ・バンド・ジャズをご存知だろうか? ドラム・ギター・ベース・ピアノ・トランペット・トロンボーン・サクソフーンなど、様々な楽器で奏でる演奏ジャンルである。その音楽を学べる「カレッジ・サウズ・オーケストラ」は、創部50年以上の歴史ある団体として日々活動している。

「ビッグ・バンド・ジャズ」には指揮者がいない。だからこそ演奏中お互いの音を聴きながら楽器を奏でる事で、吹奏楽とは一味違う一体感のある音楽を創り上げていくと話す山口素子部長(経済・3年)。演奏構成・内容もメンバー全員でミーティングを行うことで、自分たちしか出来ない音を奏でられるのも非常に魅力的である。

同団体の1・2年生を主体としたジュニアバンドはステラジャムを目標に、3年生を主体としたレギュラーバンドはYAMANO BIG BAND JAZZ CONTESTを目標に、日々の練習に励んでいる。その他、自治体の依頼での演奏、他大学とのジョイントコンサートなどにも積極的に活動している。山口部長は「課外活動も多いため、色んな人と交流することが出来る。他大学や友人同士でバンドを組むこともあるので、色んな音楽に触れて学べるのも勉強になると話してくれた。

